

令和5年度 第3回学校運営協議会 議事録

日時 令和6年2月7日(水) 10:00~12:00

場所 本校会議室

出席者 学校運営協議会委員(5名 A委員:私立大学教授、C委員:本校PTA副会長、D委員:吹田市立就学前施設園長、E委員:障がい者就業・生活支援センター所長、F委員:吹田市立中学校校長)、校長、進路指導主事、事務局(8名)

*B委員:株式会社 部長は欠席

1. 校長挨拶

委員の皆様、お忙しい中、第3回の学校運営協議会にご参加いただきまして、本当にありがとうございます。2024年も明けまして、あっという間に、2月となりまして、第3回目の総括の時期となりました。今回は、令和5年度の学校評価と、次年度(令和6年度)の学校経営計画について委員の皆様からご意見をいただくことがメインとなります。特に、今年度については、「教員のやりがい、専門性の向上、そして、働き方改革の推進という点につきまして、1回目2回目とご意見を伺いました。学校評価の中にも、いただいた意見を記載しております。それも踏まえて、次年度の、経営計画案を立てましたので、これからの改革の進め方の方向性ということもお話しさせていただきたいと思います。これについてもまた、皆様にご意見をいただいて、計画に生かしていきたいと思います。限られた時間ではございますけれども、どうぞよろしく願いいたします。

2. 資料の確認(省略)

3. 報告

- 令和5年度学校経営計画及び学校評価(案)について
 - * 校長より説明(学校経営計画及び学校評価は本校HPに全文が公開されています)。
 - * 3「本年度の取り組み内容及び自己評価」について特に説明・
 - * 自己評価は◎○△でおこなっている
 - * ここでは、具体的な取り組み内容の一つ一つについて資料を補足する説明があった。
- 令和6年度学校経営計画(案)について
 - * 校長より説明(学校経営計画は本校HPに全文が公開されています)。
 - * 特に前年度との変更点について説明があった。

* 1 「めざす学校像」に最上位目標を新たに設定

→「学びあい、認めあい、みんなが主役として輝ける学校」

→これは「新しい吹田支援学校のリーダーズ会議」等の研修成果でもある。

→教師が安全基地となり自己肯定感を高めるためにはの問いに対する回答でもある。

→主語は子どもであり教員でもある。

→「働き方改革」のヒントもここにあるのではと考えている。

* 次に中期的目標の項目について説明を補足

* ここでは、説明の際のキーワードのみを記します。

< 中期的目標 1 >

「主体的学び」「ICT を活用した教育実践」「オンラインの活用」

「センター的機能を内向きにも活かす」「校内外のネットワーク体制構築」

「吹田まなびスタンダード」

< 中期的目標 2 >

「キャリア教育における学びの実感の向上」

< 中期的目標 3 >

「地域・PTA と連携した防災教育」

* さらに、中期的目標に基づく取り組み内容について説明。

* ここでは、説明の際のキーワードのみを記します。

< 中期的目標 1 >

「授業計画週間」「可変的なカリキュラムの確立」「ICT モデル授業」

「実践報告会の実施」

< 中期的目標 2 >

「全校キャリア目標」「交流教育によるともに学びともに育つ教育の推進」

< 中期的目標 3 >

「安全基地としての学校づくり」「危機管理意識の向上」

「PTA 共催による保護者支援」

< 中期的目標 4 >

「分掌再編」「チーム支援」

• 令和 5 年度進路状況報告について

* 進路指導主事より高 3 生徒 2 2 名についての進路先についての説明。

* 進路先として「自立訓練」が多い傾向が続いている。

* その他個別のケースについての報告あり。

• 学校教育自己診断アンケート（学校評価）について

- *担当首席より資料に基づいて報告（本校 HP で公開されます）。
- *改善が必要な項目に絞って報告あり（2項目）。
- *その改善のための今後のアイデアについて説明があった。

4. 小学部授業見学・・・小学部2年「グループ（ことばかず）」の授業を見学

5. 休憩

6. 協議「教員のやりがい・専門性向上・働き方改革の推進について」

- 協議は、会長 A 委員の司会のもと進められた。協議は、令和6年度の学校経営計画案について各委員がそれぞれの立場から発言し、それに対し A 委員がコメントするという流れで進められた。
- その前に校長より、「働き方改革」についての以下のような補足説明があった。
 - *経験のある年齢層が減って、経験の少ない先生が増えている。
 - *専門性やスキルの伝達も課題の一つである。
 - *ICT活用により利便性は向上しているが、一方で「個業化」が進んでいる。これにより、心理的な孤立感とか負担感が大きくなってきた、ここにメスを入れる必要がある。
 - *チームで「支援」を進めていくのが、支援学校のやっぱりいいところである。
 - *それを活かす働き方の改革を。具体的には、学校業務を「担任」ラインと「分掌」ラインと大きく2つに分け、一方をメインに、他方をサブにすることで、特定の人への仕事の集中を避け仕事量の均等化を図りたい。
 - *そのためには、職員全員にコーディネート力が求められる。これらの取り組みが仕事量の軽減化につながる。
- 次に A 委員より「最上位目標」についての発言があった。

【A 委員】令和6年度のところで、この最上位目標というのを掲げられていますが、じゃあ、この主語は？というところで、「子ども」が主語だけでも、「教職員」も主語だという説明が校長からありました。みんな1人1人が、主役としてやっていこうということだと思います。また、この目標に向けて取り組むことが、働き方改革にもつながっていくんじゃないかっていうことも校長先生は説明されていますが、私もその通りだと思います。分掌改編も含めて、全て、教職員同士が目標を共有して、お互いに助け合える、認め合えるような、教員集団を作っていく。それが、子どもたちにも影響を与えていくということと理解できません。

・次に、各委員より順番に発言があった。以下、各委員から出された感想や意見のあらましを記す。(順不同)

【E 委員】自分が見ていて感じるのは、全体的にすごくいい流れになっているんじゃないかなってところです。いろんなところとの連携をやられているというところで、PTAの方とも連携されていたりだとか、また、外部機関の活用っていうようなところでも連携されていたりする。やっぱり、そうやって連携を取ることで、負担感の軽減や、自分だけでは考えられないような知識や手段を得られるというところを体感されているようで、それなら次は、内部のところの連携もさらに強化していくということで、すごくいい流れだと思います。

また、校長先生から先ほど、分掌改編の案が出されましたが、これについても自分はすごくいいなと思いました。一人の教員がメインの業務を数多く担うということになってしまうと結局どれも手付かずになって、しんどくなって、追われている感が出てきて、結果、やりがいがなくなったとか、モチベーション保てなくなったとかになります。先ほどの校長先生の話にもありましたが、分掌を統合することで、仕事の多少を調整し多くの人に振り分け負担感を軽減することはかなりできることじゃないかなと思います。

また、(仕事について) 相談、意見が言える環境っていうところは、すごく大事なと思うので、その辺りも、よく考えられていて、それも含めて、すごくいい流れになっていくんじゃないかなと思いました。

あと、残業が、時間外がやっぱりどうしても増えてしまうっていうところはあるにしても、数としては減ってきている。一部の方が残られているのかなっていう風に思えるところもあるので、なぜ、その人に業務が集中しすぎているのかとか、逆に、残業ありきで業務されている方とかもいる、その辺の原因を解明して、どう変えていくのかっていうところがポイントになるかなと思いました。

【F 委員】一部の教員に仕事が集中するっていうところを、「担任」ラインと「分掌」ラインと大きく2つに分け、一方をメインに、他方をサブに、というふうに変え均等化しようという課題は、どこの学校でも同じだかっていうところが、正直思うところです。

ただ、今すごく歪み「大量退職」とか、そこら辺の歪みが出てきたため、なかなかちょっとそこまで踏み出しきれなくて、結果、一部の教員に仕事が集中している、こういった実情は吹田支援さんも同じではないかと思います。今、市町村立の方は、若い世代が、大量採用の世代がだいぶ育ってはきているんですけども、ちょっとまだまだかなというところもあるので、その不安感から踏み出し切れない実情もあるかなって思います。あと、もう1つ、人が足りていないというところで講師の先生が増えてきているということも同様です。講師の方は、マックスが3年、それ以上は今の学校には入れないということから、その方に分掌のメインとなってもらうのはしんどいよねっていうことになる。そうすると、やっぱり、

一部の教員に負担が出てしまう。こういったジレンマがあるというところが悩みです。

とはいえ、先ほどの、やっぱりこの「担任」と「分掌」という切り分け、お互いに「チーム」で仕事の分担をといるところの方向性は、市町村立でもやっていかなければいけないのかなと思います。

話は変わりますが、来年度の学校経営計画で、居住地校交流や生徒会の連携というところを来年度も引き続きお願いしたいと思います。あと、「障害理解研修」を吹田支援学校ではされていると思うんですが、例えばうちの学校の支援の先生や興味のある先生が、オブザーバー的に参加させていただけるような機会をいただければありがたいかなと。そういうところでも、教員連携、情報共有いうところを進められたら、より専門的に学べるのではないかと思います。そういう新たな次元で連携させていただけたらなと思っています。

【A 委員】F 委員の発言を受けて

- * 次の世代への引き継ぎや業務分担等、ご指摘の通り、どこの学校でも共通する課題
- * 逆に、若い世代を生かそうという取り組みも大事。例えば、ICT 関連。
- * 学校を超えた研修などでの教員の連携は今後深めていってもらえれば

【D 委員】小学部の見学をさせていただいて、うちの卒園児の子たちもいたんですけど、順番やでって言われたらちょっと待っている姿があったり、次は何々のやつ出したって言ってたりするのを見て、本当に大きくなったなと思って、すごく嬉しかったです。ありがとうございます。校長先生も言っておられたみたいに、授業力がね、すごく高いなということで、うちの方からも研修にも行かせていただいたりしてますが、地域の支援に関わる学校の先生とかにもね、そういうところとかも見ていただいて一緒に学んでいくのもすごくいいことやなと思いました。

ところで、どうしても1人に仕事が偏ってしまうという点では、うちの方でもクラス担任は複数担任で一緒にやっているのですが、やはり、若い先生が増えている中で、経験のある職員の方の仕事がどうしても増えてしまうみたいところや、若い先生たちがなかなか自分の思いを言い出しにくいところへんとかもあるので、今日のお話を聞いて、気をつけながら自分も進めていかなあかんなと思いました。

別の話ですが、学校評価の方も、年次的にちゃんと計画を立てられて進められていて、本当に達成率が上がっていることがすごいなと思います。来年はこういう風にして、次はこういう風に進めていくっていうふうに丁寧に取り組んでいくことで達成率が上がっていくんやなと思いました。どうもありがとうございました。

【C 委員】先生方、研究会に委員会に研修とか、研究とか、子どもたちのためにたくさんありがとうございます。先生たち体調大丈夫でしょうか、とか、色々あるとは思いますが、やめないでね、という思いがあります。

お忙しいのに、さらに昼休みのスイタフェス、あと、ホームページで、教材の情報とか、そんなこともやってくださってるんだなと知りました。本当にありがとうございます。多分、ちょっと、みんな知らないところとかもあるので、例えば、ハグノートで、こんな、ホームページでやってますとかっていうのを発信して周知してくださったら、いろんな人が見るだろうし、いろんな反響や意見とかも出るのかなと、思ったりしました。

ちょっと、連携のことで、吹田市と防災の点でどんなふうなのかというところを教えてもらえたらありがたいです。皆さん気になっているところだと思いますので。私ごとですが、能登の地震で、えっと、避難をちょっとしたんです、帰省先だったの。被害はなかったんですが、私のところは、津波がもう来るって言われて、あの一、子どもと一緒に逃げたんです。けれども、避難場所とか実際、その所ってどこかとか、全くわからないですし、自宅ではリュックは備えてるんですが、それは実家になくて、そういうこととかも不安でした。まあ、その、何もなかったのが良かったんですが、もし、ちょっと詳しく、あの、気になってる保護者とかもいらっしゃるのかなと思うので、やっぱりその吹田市との連携というのは大事なことで、その情報を教えてもらえたら、また聞く機会があればありがたいと思います。PTAとしてもお手伝いできることもあればと思っています。

【A 委員】F 委員の発言を受けて：本校は、地域の人たちの避難所としても指定されてるわけですね。その辺り、地域との連携ということで理解を深める機会を設けてもらえればと思います。

・次に、「キャリア教育」が話題となった。小中高それぞれでのキャリア教育、学部間連携授業についての意見が出された。まず、司会から進路主事に話が振られ、その後、校長等の発言が続いた。

【進路主事】イベント的に、小中連携事業とか中高連携事業とかの取り組みをさせてもらってはいるんですけど、どうしてもやっぱりその取り組み自体が、なんか、まあ、上の学年の子たちから見たら、お客さんが来たみたいな感じの感覚になってしまって、実際、共に学んで将来を考えるっていうところまでは、まだ結びついてはいないかなという状況です。先輩の動きを見て、小学部、中学部の子が憧れた、ああいう先輩になりたいな、とか、逆に、上の生徒が、小さい後輩たちと共に学ぶことによって、よりこう、自分の学びの定着を身につけるといってねらいでちょっと進めていけたらなとは思ってはいるんですけど、まだ、ハードルは高いかなって感じがします。

【校長】先ほど小学部の授業を見てもらいました。私としては、授業の中で実践はできていると思ってまして、それをやっぱり教員側が、見える化、言語化できてないだけではないかと思っております。さっきの子どもの様子を見てもらったらわかりますが、役割分担しつ

かり分かっていて、次、僕やりたいとかの発言もあり、授業の流れが分かっていました。だから、授業って教科指導だけではなくて、自立活動の観点とキャリア教育の観点も授業の中に絶対入っていると思うんですよ。で、それを、進路部だったり、いろんな部署で連携したりして、今やっていることを言語化することだけで、キャリア教育が目に見える形で達成できるのではないかと考えております。

【C 委員】子どもは小学部3年なので、まだ漠然としすぎてなんですが、デイとかだと高校生のお兄ちゃんとかに、すごく面倒見てもらってる感じがあって、学校でも連携授業があったら楽しそうなのかなと思います。まあ、その授業に入り込んで、ちょっと見学っていうのでは、多分、お客さんになっちゃうので、スイタフェスみたいにちょっと遊びとか、ちょっと一緒に畑に行って水やりするとか、だと、お兄ちゃんは、ここで頑張ってるんだっていうのもわかりやすいかなと。キャリア教育という風になってしまうと、ちょっと、堅苦しい感じが、保護者の立場からすると思いますので。子どもがこんな（お兄ちゃんみたいな）風になりたいって思ってくれたらいいかなと、ま、逆に、高校生の方の方も、ちょっと、あの、（小さい子は）可愛いとかっていうので、関係が広がってくれたらいいのではと思います。小3年の学年のお母さんに聞いても、やっぱり、まだ漠然としすぎていて、今の段階では、やっぱり、触れ合いみたいなのを求めている方が多いんじゃないかなって、私は思います。

【A 委員】小学部ではやっぱり、遊びの中で学んでいくことが非常にたくさんあると思います。あと、小学部で基本的な生活習慣というか、日常動作というのか、そういうところが、毎日ですよ、その積み重ねが小の段階からずっとやってきたことがやっぱりすごく生きていると思います。

・まとめ

【A 委員】校長先生には引き続き、いろんな改善を先生方と一緒にお願いしたいと思えます。若い人も、本当ははこんなことを言いたいと思うんだけどもなかなか言えないっていうんじゃないかと、「新しい学校のリーダーズ」で、どんどん出し合って、いい学校につなげていただけたらなと思います。

各委員からもいろんな意見を言っていただきましたので、また参考にしていただいて、次年度に役立てていただけたらと思います。

【校長】ありがとうございました。

7. 事務連絡・閉会

以上